

奧羽

小學勸農新編

岡見知平著

上

會
函架號

大日本教育會刊			
第		三	
室		六	
三	六	二	三
冊	一	架	六
	號		圖

180
7
320

362

K110.6
33

484

B 21

2462



○上巻ハ農具の便利を圖解せし物あり
力よききとも二三人力のをたらきありて去
細ふさむき作物能く生育し利勘なる
を考るせしあり

奥羽 小學勸農新編 全三冊

○中巻ハ肥し用のむやうを考せし作物ハ去
やふあらされハ寒のりふ損あり又刈草の
肥し多く虫とある害ある也其利害考るせし
○下巻ハ水利の得失田畑ハ水漑く肝要を考
るせしあり作物の化育ハは術ふよくて花
よく咲き実のり大よきを考る

東京
春朝
香

奥小 勸農新編序
羽學
奥羽ハ其國廣大なるハ收穫之
活法南ハ寒暖ハ差別ありて又
山川の向キ背キ殊ニ土壤の高卑曠
野ハ膏腴瘠硬等ニ至り瀕海ハ
野風一郡一郷の内かくも各早晚あ
り故ニ其地の氣候を考ひ専程

藝力農を為さへしもし庶羣
の惰夫嬾婦の時小後小業に於たる
事の戒ともなるべき乎依て郷村児
女深誦小便をなると且大人君子
の一覽ありて稼穡艱難をも志りた
るふへき一端ありん乎希る也

勸農堂誌

崇神天皇六十二年詔開池溝勸
農事

岳仁天皇三十六年令誅國開
溝池同九十年令田道間守命
求香果

本朝通記曰靈龜元冬十月詔誅
州勸農業詔曰國家隆泰之要

在富民民本務從貨食故男勤耕
耜女修徃穢家有衣食饒人生
廉耻之心今在國百姓未盡產
術趣水沢猶不知陸田之利或遭
澇旱更無餘穀秋稼着田能夕
致饑饉此乃非百姓懈固由國司
不存教道

奥羽の耕作は多分鎌鎌ニテ働きたり
田畑の塊細かき所は苗を生へまよ
かきまきを更のりも少し農書曰大
塊のものと小の苗をまきと云哉和らぐ農
具のありと知るべし此具の利と鈍と人
力に損益年中月日いつとも莫大に
よりたると云し此國のせし具ハ大に

永常り便利論^ニ出せし具と予う^ニ更
して自耕作^ニて試る農具たるを誠^ニ
便利あるを農夫二三人^ニ働きたりて
力^ニ入るを^ニあ^ニき^ニ知る^ニ也

奥羽に百姓の農業の心を委^ニせ^ニて
厚く^ニ是^ニを^ニ力^ニに^ニ費^ニし^ニ辛^ニ勞^ニせ^ニ凡
ども耕作の已穀菜蔬^ニの^ニ考^ニ可

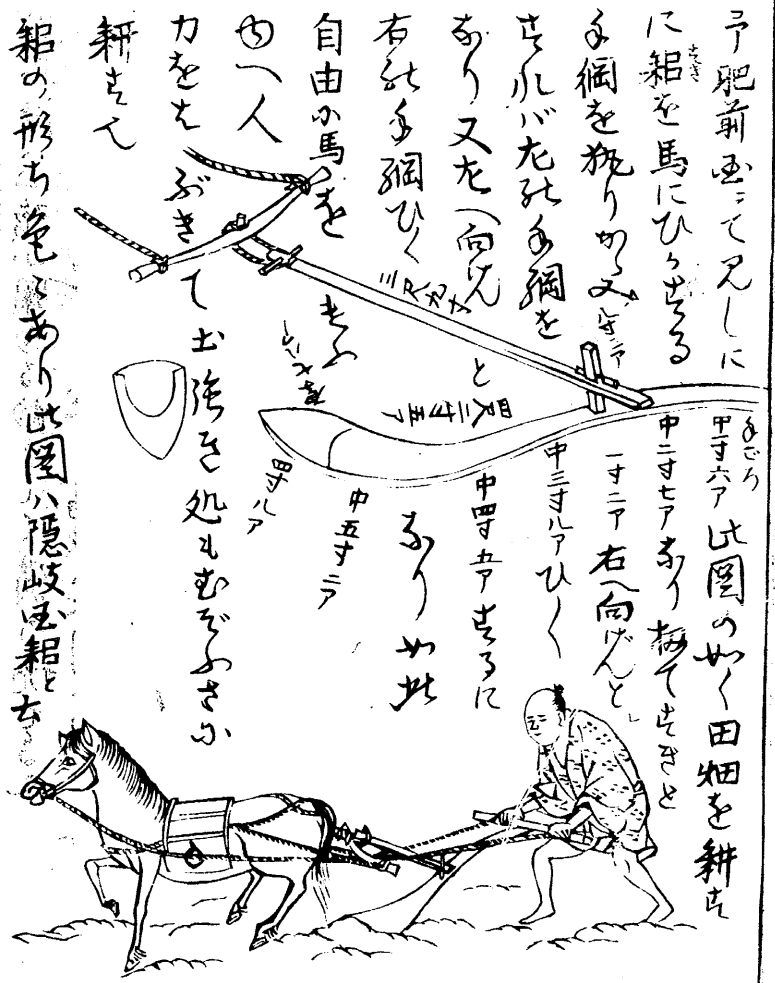
せきして百姓あた^ニり^ニて^ニ田^ニ畑^ニを
作^ニら^ニし^ニを^ニ稍^ニも^ニ凶^ニ年^ニに^ニ患^ニと^ニある^ニもの^ニ也
は^ニ固^ニに^ニ是^ニを^ニ具^ニを^ニ以^ニて^ニ耕作^ニする^ニ好^ニむ^ニ力^ニ量
は^ニ予^ニの^ニあ^ニら^ニざる^ニを^ニ商人^ニと^ニ俄^ニに^ニ農業^ニを
移^ニる^ニを^ニ易^ニかる^ニべし^ニ其^ニ後^ニ行^ニ肝^ニ要^ニを
考^ニへ^ニし

百姓の^ニ能^ニく^ニは^ニる^ニを^ニ耕^ニ作^ニ怠

予予予なるかるるを以て是れ予の勤農に
 要領心して天下の利を爲る大器械と知
 るるを以て是れ予の勤農に
 工欲善其事必先利其器百工極藝之
 業其器械之利と鈍とを以て働かざる不
 どの處あるを以て況や廣大之農に損
 益少かるはしきあり



谷馬鉄ハ土強ハ用ゆる物にして溝の塊を
 予肥後にて見
 畑の塊小石を根
 机きまて凸
 ありし土細
 水繩を流り洗化せし
 土あり馬鉄を牽
 せる右(むげん)とある右のみ
 た(むげん)とある右のみ
 牛馬自由の牽きあり
 のも細を引
 綱をひけた
 谷はくとも盛はくとも齒の寸法因し(田畠)を
 五



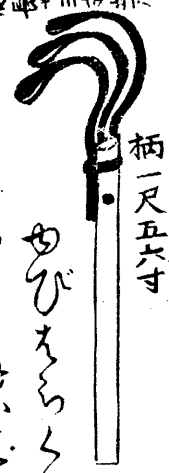
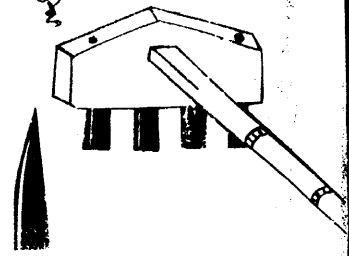
予肥前函^ニて又しに
 に耜^カを馬にひくせらるる
 子綱を挽り^ハめ^ニま^シテ
 さ^レル^バ尤^モ多^ク綱^ヲを
 あり又尤^一向^ルん
 右^ニ多^ク綱^ヲひ^ク
 自由^ノ馬^ヲを
 一人
 力を^トぶ^キて
 耕^スん

此^ノ圖^ハ隱^岐國^ノ耜^ト也
 甲^ノ六^寸ア^リ此^ノ圖^ノ如^ク田^畑を^耕ス
 中^ニテ^ハア^リ極^メテ^モ也
 一^寸ニ^テ右^ニ向^ルん
 中^ニテ^ハル^ハひ^ク
 中^ノ甲^ヲさ^スる^ニ
 あり^ハ也

把

長^ク六^寸ヨ^リ八^寸ニ^テ四^寸ア
 山^ノニ^テル^ル鉄^ノ杖^ヲを^三寸^ニテ^一寸
 ニ^テ二^寸ニ^テ一^寸ノ^長七^尺ヨ^リ也
 以^テ自^由ノ^力を^用フ^ル也

此^ノ耜^ノより^もさら^に鐵^ノ杖^ニ三^人ノ^力を^用フ^ル也
 つ^らく^れ杖^細ク^テ一^寸ノ^石單^ヲ根^ヲか^き
 さ^らに^又種^ヲ下^ニ一^寸ノ^石單^ヲ根^ヲか^き
 あ^らハ^バ苗^ヲめ^ぎ一^寸ノ^石單^ヲ根^ヲか^き



柄一尺五六寸

ゆ^びを^らん^くを^よハ^シテ^は新^ノ杖^ヲぬ^き
 か^さこ^の生^ノた^るを^よハ^シテ^はあり

田は茶をうゑつゝの
 鷹爪 ちかつめの四本三本大中小あり



かんづめの苗はあつては赤いふたが「か」で「ん」で「つ」で「め」
 冷たるお上の茶も田を犯すものなり上方はくまの
 田を犯すたるよりお上り下多とくつかやきぬ(田を犯すものた
 して又苗はく根をもきるものなり)は「ん」で「つ」で「め」
 更にも多し「ん」より苗はくまの茶もふるものなり
 て苗はくお上の茶は「ん」で「つ」で「め」は「ん」で「つ」で「め」
 おや「ん」で「つ」で「め」は「ん」で「つ」で「め」

小黒鉄



地々二尺九寸五ア

金平目

五寸五ア

諸國鉄之圖

尾張國知多郡より諸國へ

番後働か出るお上鉄を大黒鉄

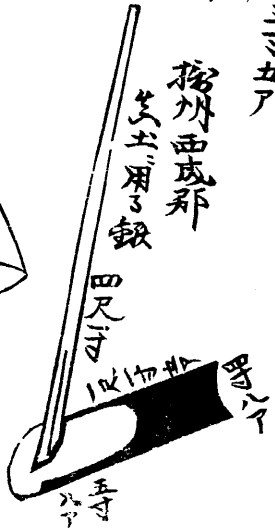
用るに鉄は竹木の根を

きる小むさうさるは他の

くこ三程は働かせること

檜州西成郡

さうお用る鉄



四尺五寸

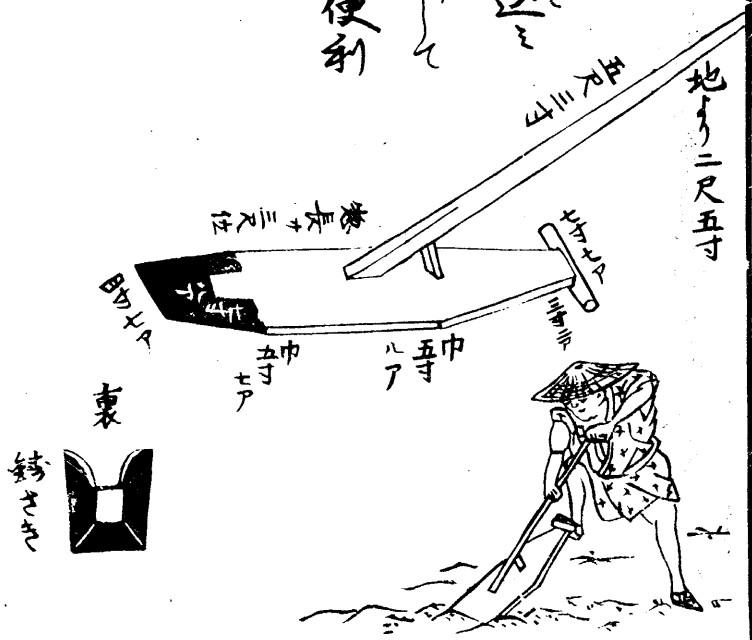
五寸



金平六百目

地々二尺四寸

ふとく己
 右足つてふとく己
 左かえし〜
 耕より大便利
 此具あり

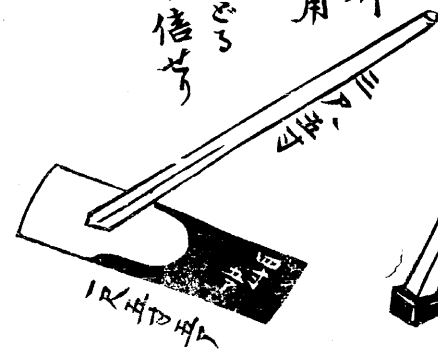


江州海津にて用
 山畑おこき用
 石とまき処はあぶ
 是かえ

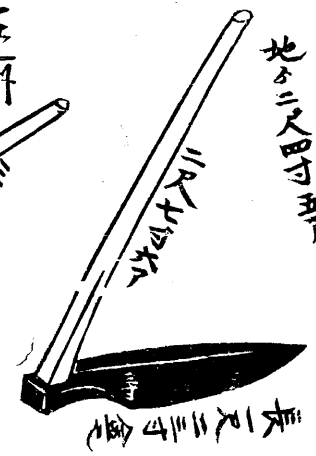


カチ鉄と云鉄鉄
 横州辺用

尾三三州
 大鉄を用
 仕事より
 多小鉄の倍なり



地より二尺四寸五分



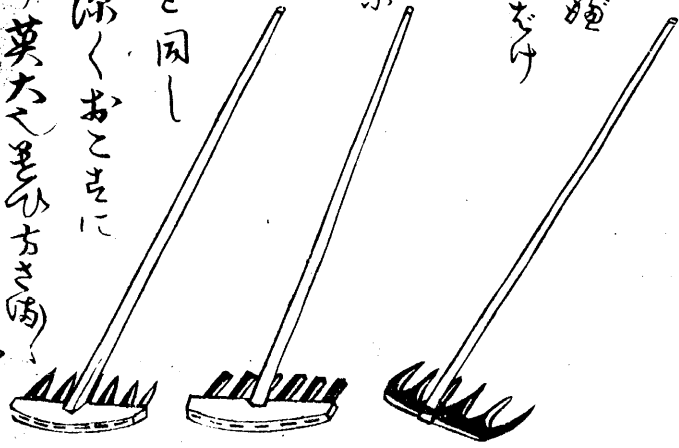
廣島 土破地鉤

畑を耕すに用ひし其鉤をかき
 さらし又麦菜種を切か
 かりき立る三物鉤あり此は土破さき
 けり

地あらし 年々さう
 少し齒を平めなきべし 破地の
 よし 是ひ方角二回

金櫛

はまらきひろし 年々さう
 塊をくつきかき土をゆるくおこきに
 人力はたきけり 是ひ方角二回



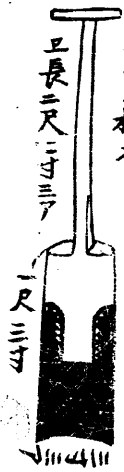
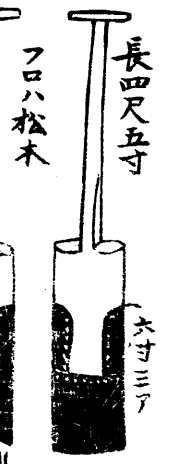
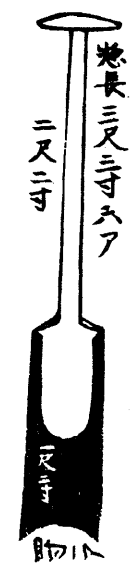
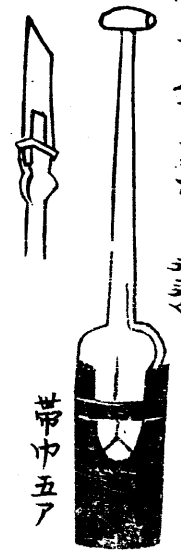
惣名 備中鉤



アノセア
 七百五十目

大坂にて多作の
老用鋤

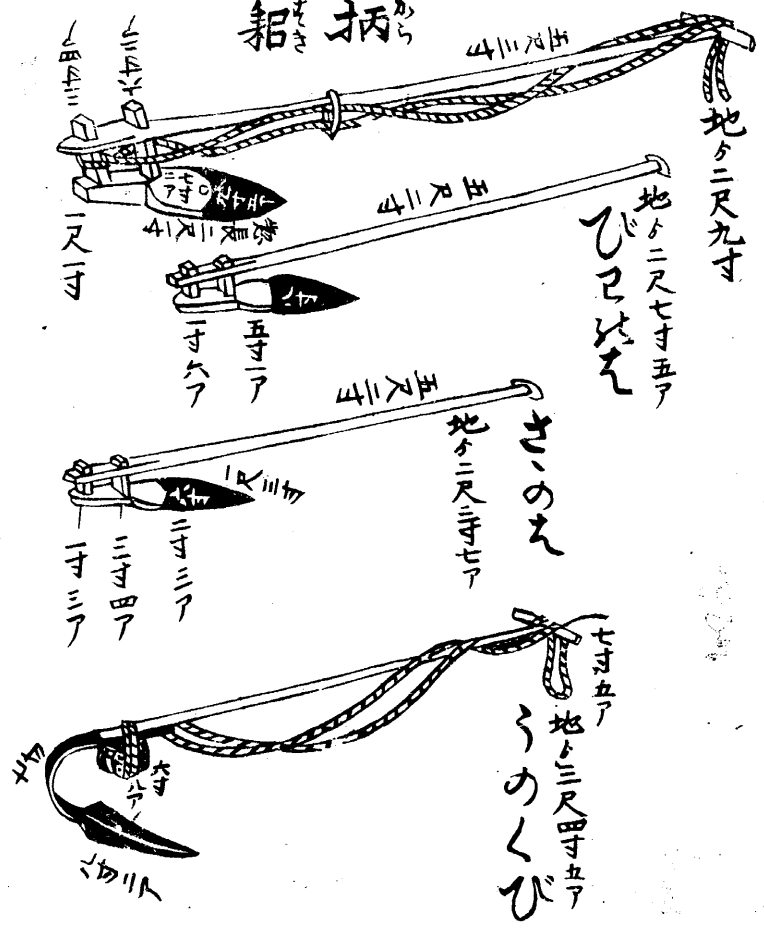
一口金ともいふく大坂



土切り

福をうりあるおを
深くきさるふせせ

船柄



此集 耜ハ麦根根(培を)

鎌より倍(せり)畝の

志(か)ひ大中小(用)

也(べ)し(破行)ひ(け)を(せ)

深(か)く(糸)き(左)右(培)子(は)

子(こ)も(り)も(り)も(り)も(り)

畑(は)耕(か)す(小)鎌(こ)も(り)も(り)

ある



油揚(あけまの)万能

形(三角)の(して) 地(今)三(尺)六(寸)
油(あ)け(と)の(油)に(た)る
由(右)と(左)と

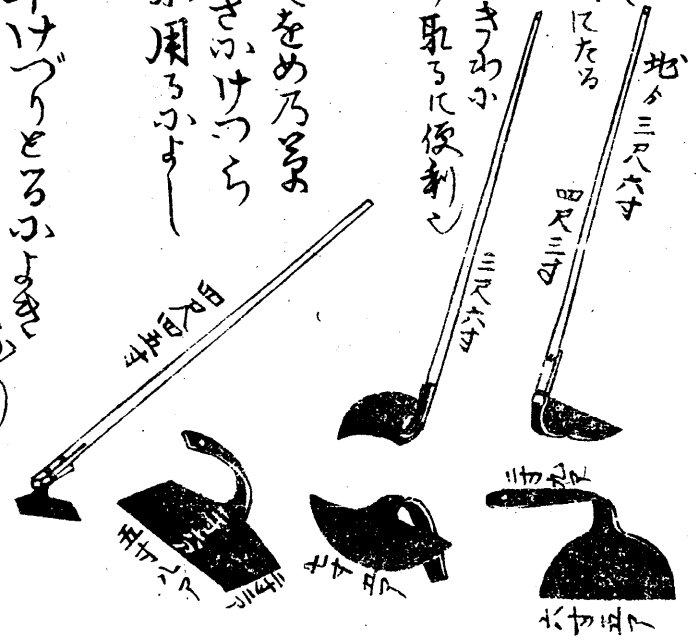
は(あ)け(つ)り(畑)の(苗)き(め)の(小)
生(た)る(ま)を(け)つ(り)取(る)に(便)利(と)

杏葉(いんよう)万能

知(し)れ(ず)を(あ)れ(た)を(め)乃(る)乃(る)
け(つ)る(ふ)む(ぞ)き(け)つ(ら)
る(あ)り(又)ま(む)用(る)ふ(す)

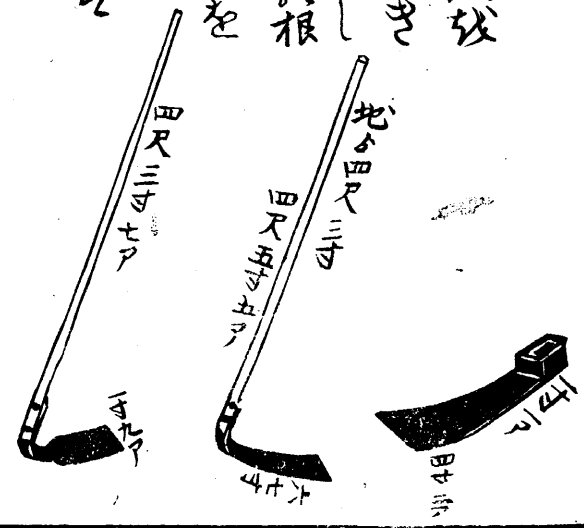
角(かく)万能

孫(まご)の(中)に(單)け(つ)り(と)る(ふ)も(り)



新鋏 あらたなきりば
 のこぎり

はてをの大小あり麦刈
 まぐら用の其の大きき
 そのすしはききらふよし
 ぬき(刈)るより苗を根
 より二寸ほどぬきぬき節を
 きるそのみぞ(犯)
 残つきてぬきぬき節を
 してきぬめえや



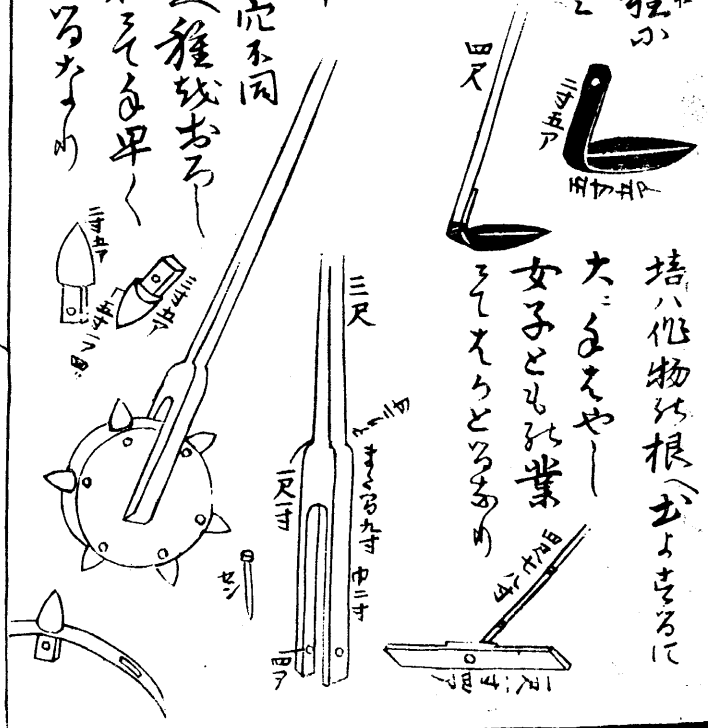
ひりえ

麦綿菜種あまのこ
 の

あやしいくふし
 をきつる又
 節をきり
 便利あり

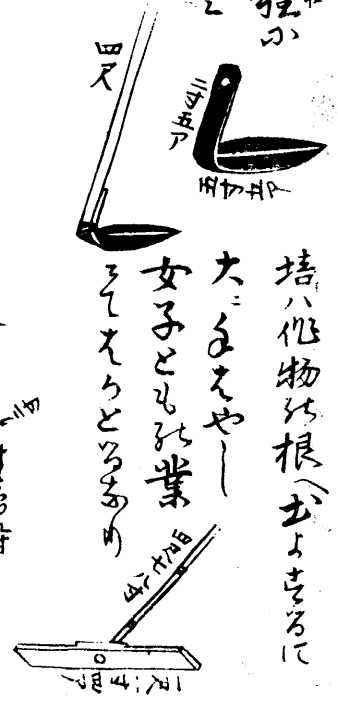
豆車くろま

車軸の穴不同
 あくあく虫種はなる
 苗をへて万能なる早
 つけつらとるなり



培つちかひ

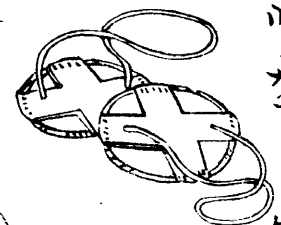
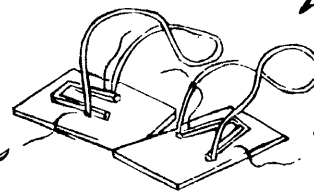
培ハ作物の根をよきなるに
 大なるや
 女子とも此業
 こそえらとるなり



かどき

備にかづく製

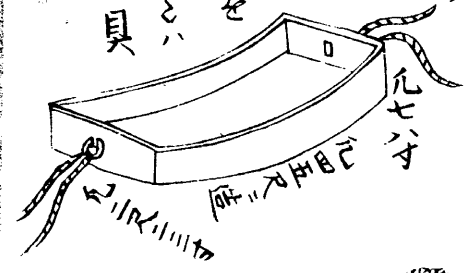
土履



田舟

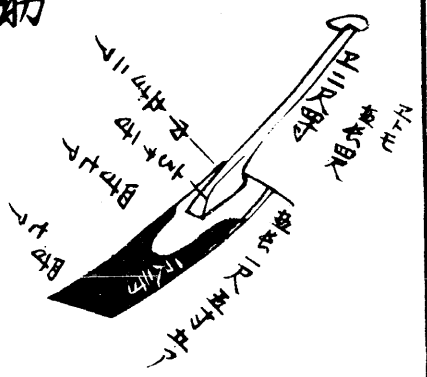
田舟の糸を

ひきて引まわす
土残のきる具



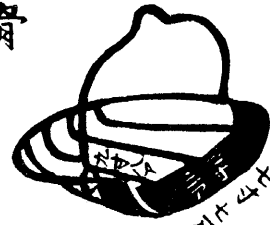
土残のきる具
ひかけて引まわす
土履

江州鋤

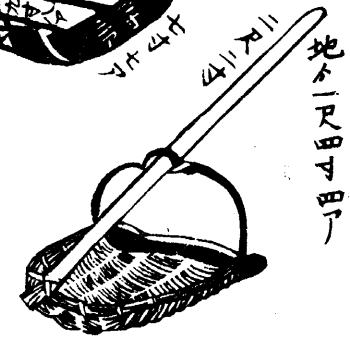


はきき少しくとありて畦をこぼれ
さく〜の便利を里まで
方ハ力強勞せきして田畑を
なす

鋤原見



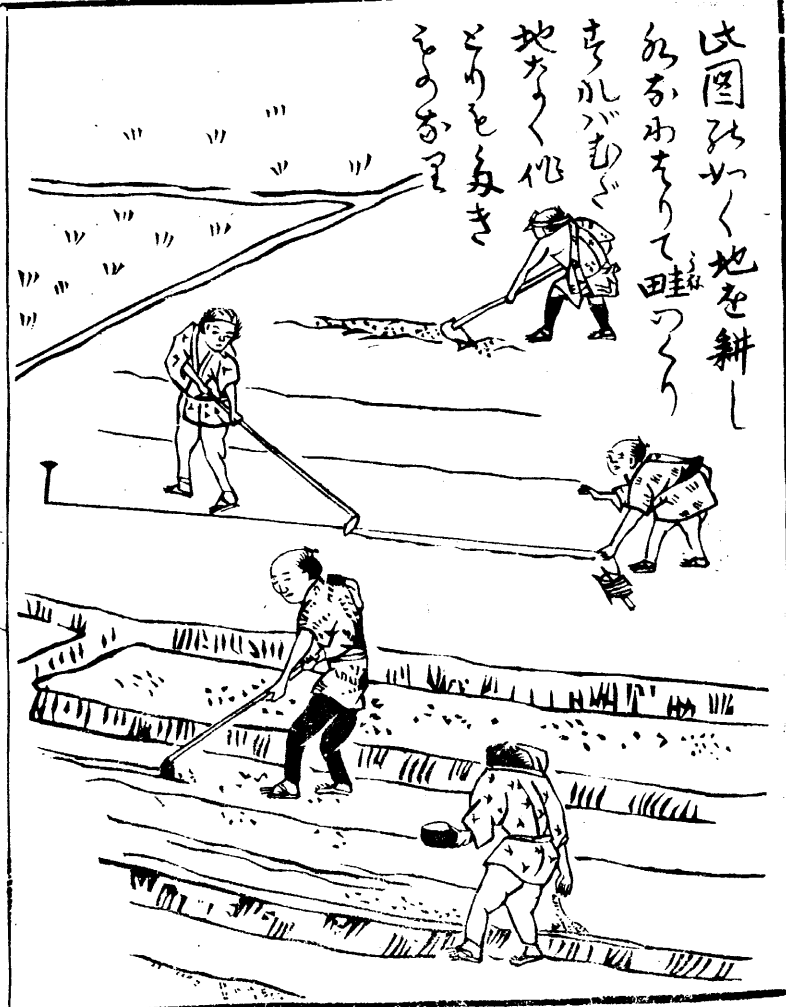
曲鉄骨

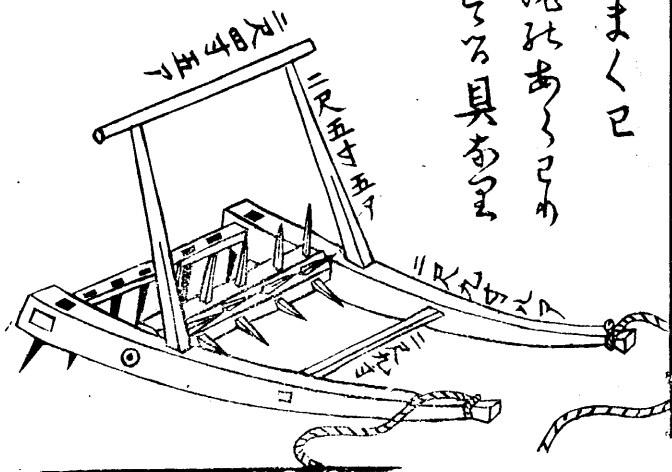
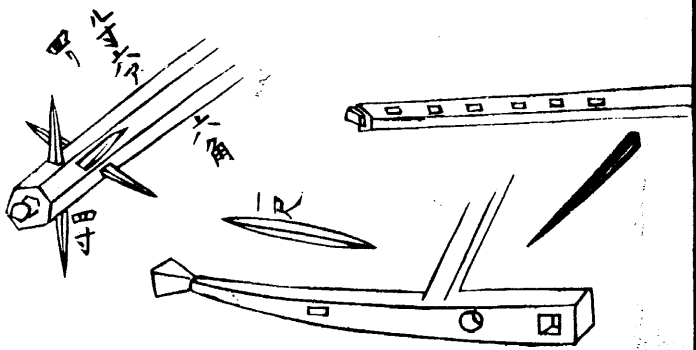


地一尺四寸四丁

畑畑で土をまきく心
 鎌より便利なり

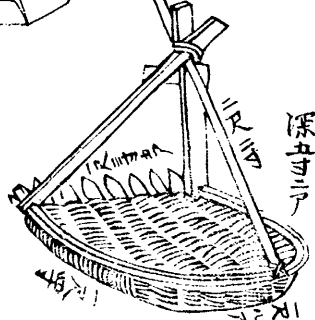
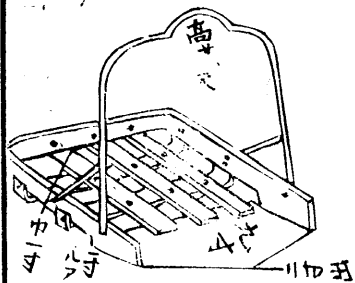
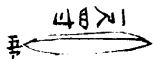
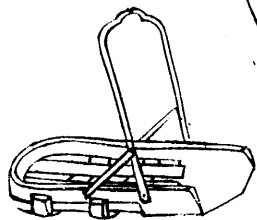
は田路かく地を耕し
 水がわたりて畦しづつり
 水がむど
 地がく他
 どのもぬき
 そのま





車まぐり
塊がある
さる具ある

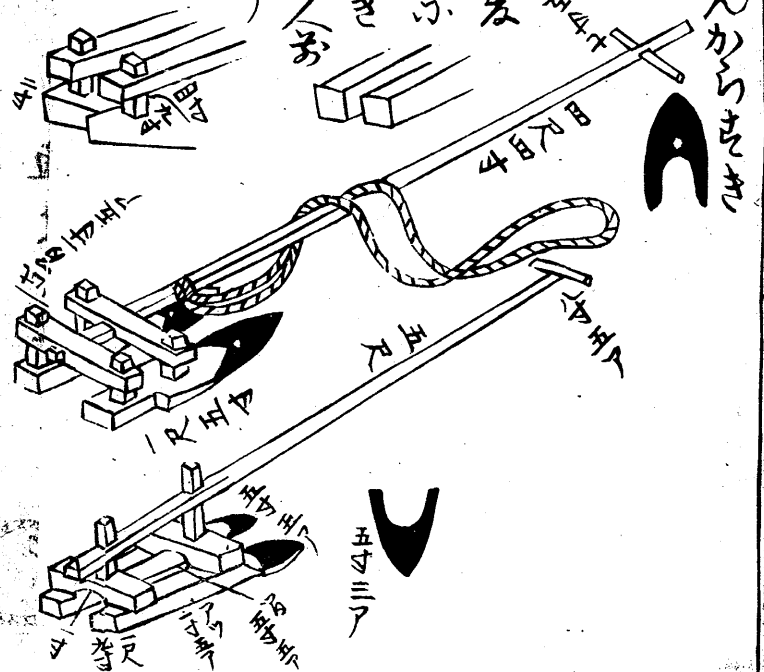
物鉄器具江戸
泥を上る小用



大板(1尺2寸) 用板(1尺2寸) 相要(1尺2寸)

1尺4寸

ニで〜かけむんからさき
 は二で〜かけ
 用る細綿
 化とりかぬる時
 程まかんときさふ
 て〜のく〜と筋き
 り結えらき三ノ
 せし器具あり
 上可ハ作物利
 勤〜を〜を
 か〜を〜を



嫩菜の貯水くろ図

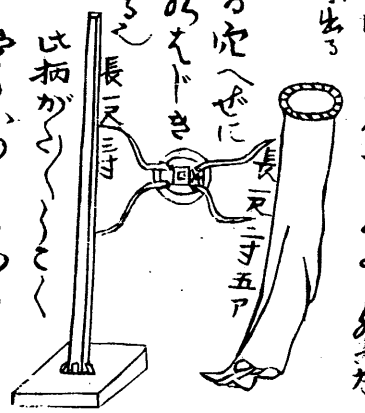
其日早魁時菜蔬かき
 うは苗三寸は以て大事
 水あ〜かくハ苗〜を
 ひかくし〜ハ水かき桶
 結袋す〜とす〜ハ苗
 根とと〜を〜ハ苗
 ち〜にして〜ハ苗
 苗三寸は時す〜ハ苗
 初〜は桶〜ハ苗
 一滴とち〜ハ苗
 て〜ハ苗



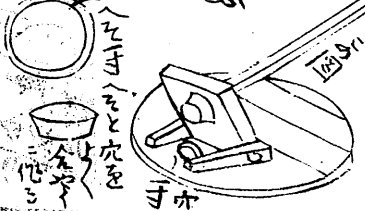
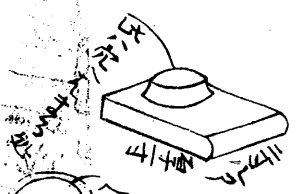
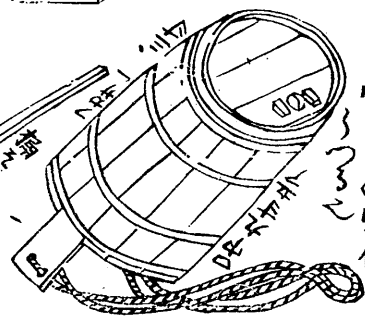
コノコトアハモめんふくろすうあつた
ひてちりか出さ

ぬぬくろ宛へかに
をけるいぬをトキ
て四方(ちり)へ

長二五
は柄が
やいづらあり



はたすうぬ出せ



山十

鉄 音 徠 秋 釜 刺 鐮

鋤 鋤 鑷 竹 鑊 錯 鐙 鋤 成 形 圓 説 鑄

耒 耜 利 耜 大 耒 耜

鏟 サシクハ 錢

耨 把 三ノ 馬 齒 把

擧 サラヒ カナサラヒ カナサラヒ キサラヒ
金 擧 鈚 木 擧

把 コマサラヒ 渠 斧

山十

拖把 セキサラセ

鐵搭 クニデ

耘瓜 厂瓜

綿扱 イナコキ

臼ウス 碓 スリウス 礮 ヒキウス 礮 ヒキウス 碓 カラウス

杵 キチ 籬 フルイ

千斛筵 セシクトシ 扇 トヲミ 唐箕

竹節 穀籜 ツリトシ 淘板

畚 フコモツコカキ 盛土 盛土

箕 アシコ 机 エブリ 土培

笊 俵 苞葉 カシキ 深田用

擔 アブ 荷負 アブ 捧

藜 笥 窠山子 カシ

綿子臺 箒内 楮 綿機 破柵 并 小國 ニテ

異國の農具器械は此の物より更に兼馬鉄
唐箕の白唐棹の如きもの數あり又此の工
流して便利なるものあり予程歴の此の
耕作見し小土地の如くは種々あり大抵永常
著述の農具便利の器械も少からず其不用
益の者きて要領の物を差小載するもの
一鋤鉄ハ將茶の筆筆の如き馬道に用はる

其の其処の如く形も変り少くは破地の
をよしく用ひるものあり一は力も少
此の農具は能く心を付けて製し又備中
國の少の形も変り少くは破地の
上才の麦斗の後半馬ある百姓の兼
此の如くは或は日かあて乾し塊
雨はすも又水はかすのたるは又牛馬

把^し成仕^しかけかきあらし田極^し地^しあらし成^しなまき
ふたつを牛馬^しあきふつて^し此^し傍^し中^し成^しもて耕^{たりや}
を^しあま江^し戸^し近^し國^しと昔^{むかし}年^しハ備^し中^しとい^しる^しとの
あ^しくして鉄^しの^し成^し用^しへ^しと^しな^しま

又秋^し田^しても備^し中^し鉄^し予^しう勤^すめし以^{こゝろ}用^しる者
希^{まれ}なるなり早^{ひやく}損^し来^し田^し地^し堅^かくなりては鉄^{こゝろ}
を^し働^{はたら}き人^し多^し成^し便^し利^し成^し覺^{おぼ}えて^し大^しに用^しる^しあり

一^し九^しで田^し畑^し成^し法^し他^し物^し人^し多^し成^しかゝる^し畑^し他^し之^し並^し芸^し
小^し二人^し成^し多^し成^し持^しし畑^し七^し八^し人^し成^し多^し成^しかゝる^し畑^し他^し成^し
利^し少^しし是^し成^し園^し成^し成^し農^し具^しを草^し成^し芽^しを
かき^しあざ^し此^し一人^し成^し多^し成^し忽^しちかき^しあざ^しなる^し
上^し方^しハ草^し成^し多^し成^し播^はぬ^しく^しな^しる^し田^し畑^し草^し成^し
芽^し青^したる^し成^し万^し能^し又^し二人^し成^し瓜^かを^し播^はあ^しざ^し此^しハ
廣^し大^し成^し場^しも^し入^し仕^しや^し古^しき^しふ^しなる^しべし

一予勸る処ハ道具ハ便利哉以テ耕作爲ル
とぎ多ク國之富ハ大寶億兆ハ司命とも云
べし世人勸も古此ハ農業哉いやしめ
農具ハ瓦礫をくくるとんつんハ此業ハ
遙む者少し深く考て辨へあらん人
誰ハ是哉作がさらん哉